

2025 年 1 月 19 日（日）第二礼拝「干からびた骨のリバイバル」エゼキエル 37 章 1～14 節

「骨」は死、絶望を意味します。「干からびた」とは、死後、長期間経過した状態です。エゼキエルは、その干からびた骨が非常に多くあるのを見ました。長期間に渡り、酷く絶望の状態にあり、問題が山積みだったことを意味します。しかし、主はそれらの骨を生き返らせ、回復してくださいました。この事を通して私たちは主を知る者へと変えられるのです。

第一番目、神様はよみがえりです。イエス様は十字架で死んで、よみがえられました。また、イエス様は信じる者たちをもよみがえらせ、問題を解決してくださるお方です。主の霊に導かれたエゼキエルは、谷間の真ん中で非常に多くの干からびた骨を見ました。その時、主が「これらの骨は生き返ることができようか。」と聞かれました。エゼキエルは「神、主よ。あなたがご存じです。」と答えます。このように主の霊が絶望的な現状を見させ、人間の限界を認めさせるのです。イスラエルは、二千年間、国がありませんでした。全世界をさまよい、干からびた状態でした。私たちの目には干からびた骨しか見えません。しかし、神様の目から見ると、干からびた骨は生き返ります。ラザロは死んで四日も経っていました。イエス様はラザロの家族を慰めるためではなく、ラザロをよみがえらせるために来られました。イエス様のビジョンは、ラザロのよみがえりだったのです。このように、絶望的な状況を認めつつ、絶望を希望に変えてくださる神様に信頼し、すべてを委ねることが大切です。

第二番目、御言葉による回復です。「私は、命じられたとおりに預言した。私が預言していると…骨と骨とが互いにつながった。…その上に筋がつき、肉が生じ、皮膚がその上をすっかりおおった。…」(エゼキエル 37：7～8)「命じられたとおりに預言した」、つまり、エゼキエルは主の言葉を語ったのです。そして、その御言葉のとおり、骨がよみがえり、死からいのちにかわったのです。脳科学者たちも、230 億の脳細胞のうち、98%が言葉に支配され、影響されると言っています。「病が癒された」と宣言するなら、そのように体が動くのです。逆に否定的な言葉なら、否定的な状況になります。ですから、私たちが神様のビジョンを信じて、御言葉を宣言することが大切です。その時奇跡が起こり、回復していきます。

第三番目、主の息によって生きようになります。人間はちりから造られ、鼻に息が入り、生き物となりました。しかし、谷間にある干からびた骨には、その中に息がありませんでした(エゼキエル 37：8)。いのちがなかったのです。そこで主の息が入った時、それらは生き返り、非常に多くの集団となりました。「わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。…このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。…」(エゼキエル 37：14) 主の霊によって死からいのちへかわり、神様の御業を体験する時、私たちはまことの神様を知ることになり、心からの感謝を捧げ、真の礼拝者へと変えられていくのです。イスラエルの民は四十年の荒野の苦しみを通りましたが、それは最終的に彼らを幸せにするためでした。自分が骨であること(絶望的な状況)を認め、今生かされている主の恵みを知ることこそ、真の幸いです。アーメン！